

月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

No.

96.9.24 4470

成田闘争 (北原鉦治著)

出版元の新決意

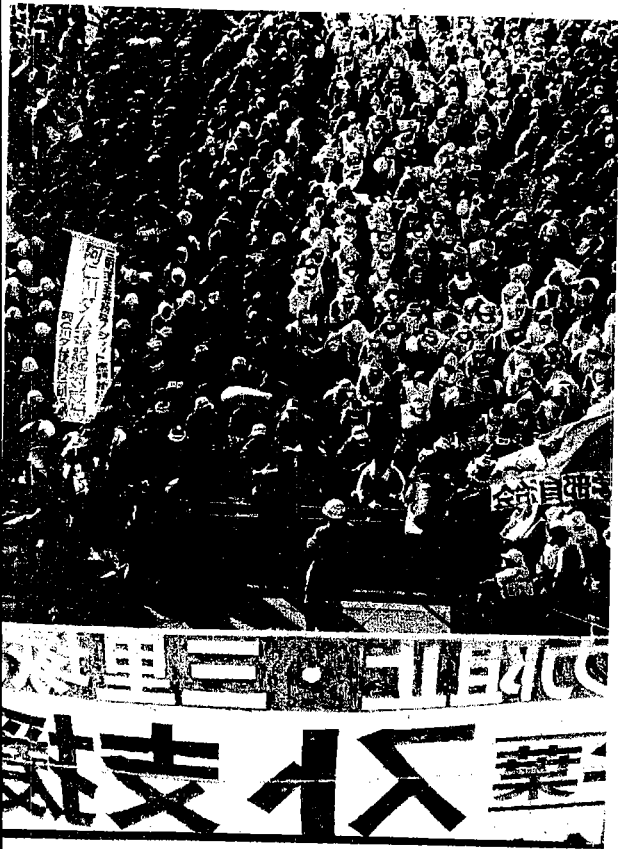
九月一六日、千葉市労働者福祉センターにおいて、三里塚芝山連合空港反対同盟・北原鉦治事務局長が書かれた「大地の乱・成田闘争」の出版記念パーティが開催され、動労千葉からも代表が参加し、北原鉦治事務局長の力作の出版と三里塚反対同盟三〇年間の闘いを讃え、さらに勝利に向けてともに進むことを確認してきた。

出版記念パーティは、動労千葉田中書記長の司会で進行され、北富士忍草母の会、関西新空港反対淡路町反対同盟をはじめとする住民の会、婦人民主クラブ全国協議会、部落解放同盟全国連などをはじめとする住民団体・闘う諸団体の代表が結集し、北原さんと共に喜びを分かち合った。

このパーティの呼掛け人として発言にたった中野委員長は、「反対同盟とは三〇年間の付き合いとなった。特に、動労千葉も三里塚ジェット闘争の車の両輪として闘いぬぎ、また、動労千葉が独立したきつかけも動労『本部』の『三里塚闘争と一線を画する』という裏切りによってであり、まさに感慨深いものがある。今も三里塚闘争は昔々と闘いぬがれている。反対同盟の『農地死守・一切の話し合い拒否。実力闘争』という闘いは、労働組合としては、考えられない闘いであるが、三里塚はそうした闘いを展開することによって、誰が闘う者か、誰が敵対す

る者かを極めて鮮明に照らしだしてきた階級闘争の鏡である。三〇年間の闘いの歴史を綴った生きた闘いの記録として今回の北原さんの『大地の乱・成田闘争』が三里塚闘争三〇年の中間総括としてある。今回の出版を共に喜ぶとともに、最後の勝利まで闘いぬこう。」と訴えた。

また、出版元の「御茶ノ水書房」からは、「この間御茶ノ水書房は、日本の社会史に寄与するような本を作ろうと手懸けてきた。この間の出版で言えば、破防法の問題を三里塚反対同盟顧問弁護士でもある葉山弁護士の尽力によって出版し、沖縄の問題も出版してきた。なぜ今三里塚なのかと聞かれるが、破防法や沖縄の問題を見ても明らかであるが闘いは燃えひろがっている。これで明らかかなように三里塚の闘いが広がることは確実だ。」と激励の言葉を述べられた。



(81.3.1. 佐倉駅前前全日集会)

一〇・一三三三里塚現地闘争へ

三里塚闘争は、反対同盟が結成されてから三〇年間不屈に闘い続けられ、今もなおかつ空港の完全開港二期工事を完全に拒み続けている。まさにその軸に座っているのが北原鉦治事務局長を先頭に闘っている反対同盟である。

本年の小川嘉吉の移転合意、農地売却を受け「成田の二本目の滑走路ができるらしい」(朝日新聞)などの報道がなされているが、敷地内反対同盟は意気軒高と闘い抜いている。自ら「反戦・反核の砦」だと位置付け現地での闘いを展開する反対同盟を支援するために、十・一三三里塚現地全国集会に結集しよう!

第23回定期大会の成功を

大失業と戦争の道を行く!
闘う団結を万端めよう

大失業時代のなかで、労働者がとるべき立場は、資本家が労働者を食わせてゆけないのなら労働者階級が資本家にならなくて社会を担っていくという立場に立って、階級的団結をうち固めることである。

大失業時代と対決する、闘う労働運動の新しい潮流をつくり出すことは、死活にかかった課題なのである。

第23回定期大会を大成功させ、これをバネに十一・一〇労働者大集会を圧倒的にかちとろう!

第23回定期大会

九月二十九日(三時)

三〇日(二時)

鴨川「鴨川館」